

団体活動取りまとめシート

	地区社会福祉協議会	西部地区民生委員児童委員連絡協議会	青少年相談員連絡協議会	白井第三小学校PTA	交通指導員	
強み・自慢・売り	<ul style="list-style-type: none"> みんな仲良しでボランティア意識が高い 地域の人が協力していただける 	<ul style="list-style-type: none"> 団結心がある 	<ul style="list-style-type: none"> 市全体で20～50代までの幅広い年齢層がいて様々な考え方を取り込める 西部ブロックや印旛地区など、広域的な連携を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 比較的協力的な人がいる 	<ul style="list-style-type: none"> 制服を着用することにより、歩行者や運転者に交通安全に関する啓発ができる 	
組織	推進委員31人(ボランティア、自治会長、民生委員、母子保健推進員、商店会、婦人会、元PTA)、協力員 役員:会長、副会長、事務局、会計、監査	西部地区全体で定数25人(三小区定数15人、[内訳]民生委員14人、主任児童委員1人) 次期から西部地区定数27人(大小区定数2人増) 任期:3年	31人(第20期青少年相談員)のうち、白井第三小学校区は5人 任期:3年間 年齢層30歳代～40歳代	563(世帯数+教職員) 運営委員会の下に、学級部、専門部、校外指導部、バレー部があり、地域との接点は校外指導部(20人程度)が中心	市内26人(定員30人) 第三小学校区9人(富士東3人、栄区3人、富士西2人、南園1人) 任期:2年	
活動の主な収支 (1000円未満切捨)	[主な収入]助成金575,000円(市社会福祉協議会から)、雑収入154,000円(模擬店ほか) [主な支出]高齢者支援243,000円(ふれあい食事会)、地域交流100,000円(こいのぼり祭り) いきいきサロン66,000円(ミニ食事会、茶話会)ほか	西部地区全体の収支 [主な収入]活動費40,000円(民生委員児童委員連絡協議会から) [主な支出]西部地区総会・視察研修ほか40,000円	[主な収入]地区活動助成金45,000円(市→青少年相談員連絡協議会→)、富士センター運営協議会事業費43,000円、参加費50,000円 [主な支出]食費(参加者)29,000円、報償費(謝礼)28,000円、事務費19,000円、食費(スタッフ、調味料等)18,000円、保険代8,000円ほか	[主な収入]会費(年3,600円)2,026,000円など [主な支出]PTA活動費868,000円、学校協力費600,000円、PTA運営費399,000円ほか	[主な収入]なし [主な支出]なし	
主な事業	<ol style="list-style-type: none"> こいのぼり祭り 毎年5月4日に富士南園広場にて、地域・世代間交流を図るため、こいのぼりをあげ、舞台、模擬店、フリーマーケットなどでイベントを実施 ③1,700人 自治連合会第三小学校区支部、富士センター運営協議会、一般ボランティア 高齢化により運営負担が増しており、会場設営等で負担軽減を図りたい ふれあい交流食事会 70歳以上を対象に歌、踊り、食事等を通じて楽しいひと時を過ごしてもらう 244人 ④地区社協、協力員 参加してほしい人が会場に来れないため、送迎体制の充実を図れば良い 区・自治会単位の健康相談とミニ食事会 生活に身近な場で高齢者が楽しみ交流できる機会を提供する(毎年2地区) 各地区30～40人程度 ④地区社協 3～4人 各自治会地域で実施できるよう広げたい 喫茶室「みるく」・いちごクラブ 乳幼児を持つ母親の支援、友達づくり・交流 各月1回開催 みるく…年671人 いちごクラブ…月40組まで 富士センター、協力員(ボランティア) みんなとなかなかなじめない人がいる その他に、講座事業(生花・絵手紙・クラフト・コーラス)、健康歩こう会(毎月1回)、グランドゴルフ(毎月2回)、ラミチェ茶話会(毎月1回)、独居高齢者安否確認等を実施	生活上の困りごとや心配ごとに関する相談に応じ、必要な支援を受けられるよう専門機関へつなぐ役割を担っている	<ol style="list-style-type: none"> 地域への訪問(見守り)活動 独居、高齢者世帯、児童等の見守り活動を実施(訪問や電話等) 地区社会福祉協議会での活動 こいのぼり祭り、ふれあい食事会等、様々な事業・イベントで多くの人と顔みしりになりながら、併せて個々人の状況を確認 事例報告 地域での活動事例と対応方法の情報共有(年6回程度) 学校訪問 大中、大小、第三小にて子どもや地域の状況を情報交換 米寿のお祝い品の配達 心配事相談の相談員として参加 協力:行政、自治会、地区社会福祉協議会、各種福祉施設、幼稚園、学校ほか	<ol style="list-style-type: none"> 富士センター通学合宿 子どもたちが3泊4日の宿泊を通じた様々な体験をもとに自立・自律、思いやり、地域の人の愛情を学ぶ 会場:富士センター、時期:7月第2週日～水 内容:レクリエーション、買い物、食事作り、もらい風呂など 小学4～6年生 20名 青少年相談員5名が運営し、富士センター運営協議会(人的・事務的支援)、地区社協、大山口中学校ボランティア部が協力 課題: ・ボランティアの固定化・高齢化 ・青少年相談員がみんな仕事をしているため、夕方からしか運営に参加できない ・富士センターの炊飯器だけでは足りず、個人の私物を使用している 将来展望: ・事業を継続し、過去の通学合宿参加者の運営への参加 	<ol style="list-style-type: none"> 登校指導 子どもの登校時(7時20分～8時)の安全上の見守りを定められた場所にて毎朝実施 全PTA会員が分担し、保護者2人体制で実施 割り当ては、地区内で調整し1人当たり年3、4日程度割り当てられる 一人で実施する時は心配 ・小さな子どもを持つ保護者は、子ども連れで見守りせざるを得ない状態にあり危険が伴う ・見守り時間より早く登校する子どもは見守れない 夏休み地区パトロール 夏休み期間中、防犯・安全の視点から地域の確認を行うとともに、その情報を報告してもらい取りまとめてマップ化 適宜自由な時間にPTA各々で実施 特になし 子ども110番協力 子ども110番が継続的に行われるよう、子ども110番の協力意向の調査、協力者への登録更新のお願いを実施 校外指導部 子ども110番の設置場所等の把握が未整備のため、情報把握しマップ化する必要がある 	<ol style="list-style-type: none"> 交通安全教室 保育園、幼稚園、小学校・中学校にて年代にあわせ交通安全のための教室を開催(例)横断歩道の渡り方、信号の見方、自転車の乗り方、自転車の点検等 園児、児童、生徒 交通指導員一組(3～4人)で開催 1人年3～4回程度 交通安全教室を午前中いっぱいかけて実施しているが、学年毎に分かれて実施するため、実際に指導できる時間が40分程度と短く、十分な指導が行えない ・保護者にも安全教室を見に来てもらい、保護者の意識啓発が必要である ・交通安全教室で通学路外を歩かせる学校もあり、子どもに危険が生じるため、交通指導員として安全上の責任が重く負担である 通学路での街頭指導 交通安全週間(年3日～4日間)の間、朝の登校時に通学路に立ち、子どもたちが安全に登校できるよう街頭で指導を実施 交通指導員2～3人 道路は原則右側通行であるが、現場では左側通行の方が安全な所もあり、できるだけ安全なところを歩かせたい
団体の課題 ①人、②もの、③お金、④その他	<ol style="list-style-type: none"> 高齢化によるマンパワー不足で事業の拡大が難しい 	<ol style="list-style-type: none"> なり手がいない 各自治会、地区社協推進員、ボランティアセンター、市民大学校等にPR・呼びかけし、もっと知ってもらい、欠員をなくしたい 協力意向をもつ潜在的な担い手を効果的に発掘できる方法があればいい 	<ol style="list-style-type: none"> 仕事等で忙しい家庭が多く、活動に参加しない、参加できない会員が増加傾向 	<ol style="list-style-type: none"> 第三小学校区内の交通安全に関する情報交換や共有する集まりや場ができればいい 		
団体の将来展望	<ul style="list-style-type: none"> 地域生活支援(ゴミ出し、電球交換、庭木伐採、家具移動等)の体制づくり 忙しい家庭の子どもたちへの朝食の提供 誰もが気軽に来れるサロンの開催 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの活動を継続し、福祉を中心テーマに活動 	<ul style="list-style-type: none"> 通学合宿の人数を増やしたい 現状では運営の担い手不足、施設環境(調理室のガス台や炊飯器の数)により人数拡大は難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 必要なPTA活動を見定め、つながりを途切れさせないよう配慮しながら事業のスリム化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 第三小学校区内の交通安全に関する情報交換や共有する集まりや場ができればいい 	
団体活動を通して感じる地域課題	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化の進行による担い手不足、外に出て来れない、来ない人の増加 事業参加者が同じ人が多く、広がりが無い コミュニケーションが苦手な人がいる 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化により家族や隣近所との関係などのトラブルの増加 若い人や現役の人の郷土愛の意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の地区活動、ボランティアへの関心が低い 	<ul style="list-style-type: none"> 外で遊べる場が少ない 保護者の地域への関心が低い もっと保護者が地域に関心を持つ必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 大人(親)の交通マナーが守られていない(例)道路の歩行時 親子で歩く時、子どもを車道に親が歩道側を歩く等 	